

(1)安心して住み続けられるまちづくり ～地域包括支援システムの推進～

現在、那覇市地域包括支援センター古波蔵において、配食サービスや外出支援サービス、認知症カフェ、古波蔵語ろう会等の取り組みを行っています。古波蔵地域の民生委員と協同し、高齢者の見守り活動や独居高齢者宅の安否確認訪問、フードサポート活動を実践し、地域の困りごとの解決に努め年間相談件数も延べ4,450件となっています。また、県立看護大学の学生と繋がり、コロナ禍における引きこもり問題の一助として「傾聴ボランティア」にも取り組み始めています。

古波蔵地域においては、医療生協の地域組合員と古波蔵自治会との協同で「子ども食堂～むつみふれあい広場～」を運営し7年継続しており、コロナ禍による生活困窮世帯を対象とした「フードサポート」活動にも取り組んでいます。その他、漫湖公園の清掃ボランティア、古波蔵美らさくらまつりへの参加等々、地域住民の生活に寄り添う取り組みを行っています。

これまでの実績を活かし、古波蔵地域の多様な主体（医療・介護・学校・自治会等々）とのつながりづくりを強化し、よりよい暮らしを創る地域の拠点づくり、地域包括支援システムの推進に引き続き取り組みたいと考えます。具体的には、市有地を有効活用し医療と介護・福祉の事業と併せて、誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティー広場等の「居場所」を確保し提供します。

(2)医療と介護・福祉の連携 ～地域住民のいのちを守る～

24時間救急受け入れを実践している沖縄協同病院では、2009年那覇市古波蔵の地に移転後、年間4,000件～5,000件の救急車受け入れを行っています。隣接する協同にじクリニックでは慢性疾患患者を中心に生活相談や保健指導等を行っています。在宅医療では訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護事業サービスに取り組んでいます。これらのサービスを連携させながら、医療と介護・福祉を一体的に提供し、地域住民のいのちを守ります。

また、沖縄協同病院、協同にじクリニックでは、無料・低額診療事業（低所得で医療にかかれない患者の自己負担分を支援し必要な医療を提供）を行い、生活再建のサポートをしています。

(3)地域の発展 ～より良い暮らしをめざして～

当法人の担う医療と介護事業に従事する医師と介護の専門家、地域を支える組合員、地域の団体とつながりながら、地域住民のより良い暮らしづくりに取り組みます。これは那覇市の掲げるまちづくりの将来像「なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまちNAHA～みんなでつなごう市民力～」の実現に貢献できるものと考えます。